

令和2年度
事業報告書

社会福祉法人 育美会
軽費老人ホームA型 花の人の家

○ 総括

コロナウィルスによる感染防止の為、入居者の安全確保に尽力する 1 年となりました。現在のところ感染はありませんが、今後も入居者の健康管理に気を配り感染者を出さぬよう努力をしていきます。これからも利用者及びご家族とのコミュニケーションを基本としながら納得と信頼を得られるような取り組みが出来るよう一層のスキルアップを図り、既存利用者への健康管理と機能維持・向上への取り組みを行ない、安定的な運営を目指していきます。

○ 接遇基本方針

職員の基本的な心得としている内容については職員それぞれの持つ専門性とその連携を基に維持出来ています。各階担当制を強化し、更に連携の質を高めてサービス向上につなげていきます。過去の業務水準に満足することなく見直しを行ない、入居者それぞれが持つ個別のニーズを真摯に汲み取り、より良い接遇へと心がけていきます。

○ 行事計画

今年度の行事に関してはコロナウィルスの感染拡大によって予定した行事を行うことが難しい状況であったが、雰囲気のある行事食などを提供し季節感を感じて頂く工夫をしました。今後は状況を考慮しながら合同の行事を計画していきます。

○ 教養・娯楽

密や感染を避けるため、外部講師が必要な既存のクラブ・教室などは運営することが難しかったが、施設内で完結できるスタッフ主催のクラブなどは感染に気をつけながら行うことができました。感染予防で不自由な生活の中で少なからず利用者の自立支援や活力の維持向上に貢献することができました。

○ その他 生活全般

近隣施設や学校で感染が相次ぐ中、今年度は入居者の感染は防ぐことができています。今後ワクチン接種を行っても行事、教室等、生活全般の一定の見直しは必要だと思われませんが、入居者の生活の質を大切にすることを第一にすすめていきます。また生活懇談会、給食懇談会など、引き続き日常生活の一端として継続させ、また情報提供においても日常的なコミュニケーションを基盤としつつ、掲示板・張り紙の活用も含め適宜行なうことが出来ました。

○ 介護保険の活用

R2 年度末時点で、

介護認定者

要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3～5	合計
5 名	7 名	19 名	6 名	2 名	39 名

介護サービス利用状況

ホームヘルパー	デイサービス	福祉器具貸与	ショートステイ
19 名	24 名	歩行補助具 8 名	0 件
		ベッド 19 名	

と、全利用者のうち半数以上が要支援もしくは要介護認定を受け、且つ必要に応じてホームヘルパー・デイサービス等の介護サービスを利用しながら生活して頂いている。

昨今は従来型のデイとは違いハビリに特化した半日デイも盛んであり、最新の社会資源を常に意識し、日々の生活の中から利用者個々のニーズを把握し必要なサービスを見定め利用者・ご家族への説明責任を経て理解を得た上で、外部ケアマネジャーや各関係機関との連携を心がけながら利用者の安定的な生活環境の整備に取り組むことが出来ました。

○ 衛生管理・安全管理

感染症対策委員会、事故防止委員会における会議を定期的に行ない、その決定を基に各職員が見守りに活かすことが出来ている。コロナウィルスだけでなく感染症に職員全体で意識を高め、環境の設定、利用者への啓蒙活動等、施設全体として取り組み感染を防ぐことが出来た。また火事や震災に備え、独自に避難訓練を夜間想定も含めて総合避難訓練を行ない、有事への備えにも引き続き取り組んでいます。

○ 地域交流活動

今年度コロナウィルスの影響によりボランティアの受け入れは行うことができませんでした。今後状況が改善されれば引き続き活発な交流を再開させていきます。

○ 地域貢献

配食事業を通して民生委員を始め地域の方との連携を密にとり、地域の独居高齢者へのサポートを行ないました。

また近隣施設と連携し川越市と締結した『災害時における福祉避難所の設置運営に関する協定』をもとに、災害拠点としての地域貢献が出来るよう取り組みました。

○ 広報活動

今年度で行なったものとして、

- ・各市行政（高齢者福祉課・介護保険課・福祉事務所等）への施設案内
- ・各地域包括支援センターへの施設案内
- ・市内事業所、ケアマネジャーへの施設案内
- ・インターネット（みんなの介護）（ケアスル介護）への加入
があります。

R2年度も広く問い合わせがあり、行政、包括、居宅、病院と其々から紹介・入居の実績へと繋がりました。問い合わせ自体で見ればインターネットサイトからの資料提供が多くなってきており、今年度初めて入居につながりました。過去に行なったポスティングやDM、HPからの反応も引き続きあり、また事業所へのコミュニケーションも合せて引き続き必須なものであると考えています。

○ グループとの連携・活用

定期的な情報共有を行ない、当施設での生活が困難となった利用者の次の生活の場としてグループ内の施設へ連携するケースや、見学の時点でご紹介することもありました。

○ 改修工事・設置

主だったものとしては

修繕

項目	金額	備考
雨漏り修繕	308,000 円	老朽化に伴い
消防設備改修工事	660,000 円	老朽化に伴い
居室トイレ修繕	170,000 円	老朽化に伴い

であり、補助金・寄付金の活用含め優先順位の立案から計画的に行ないました。

○ その他

特になし。

以上